

月桂樹(資産成長型)

(愛称)

(正式名称)高金利先進国債券オープン(資産成長型)



ファンドの概要

設定日：2008年11月12日 償還日：無期限
決算日：原則毎年7月10日 収益分配：決算日毎

[ファンドの特色] 1. 格付が高く、相対的に高金利のソブリン債を中心に投資します。
2. 年1回決算を行ないます。

運用実績

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。

※このレポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<基準価額の推移>



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

基準価額	19,490円
純資産総額	48.42億円

<基準価額の騰落率>

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
1.10%	1.02%	-1.81%	-4.42%	8.92%	100.24%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金実績(税引前)と決算日の基準価額>

決算日	分配金	基準価額
設定来合計	370円	-
20・7・10	10円	17,228円
21・7・12	10円	17,944円
22・7・11	10円	18,169円
23・7・10	0円	18,352円
24・7・10	0円	21,423円

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

<資産構成比率>

高利回り先進国債券ファンド クラスA	99.0%
マネー・オーブン・マザーファンド	0.0%

※比率は当ファンドの純資産総額比です。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

月桂樹（資産成長型）

運用実績

<基準価額変動の要因（直近1ヶ月）>

国（通貨）	債券要因	内訳		為替要因	信託報酬等要因	収益分配金要因
		インカム	キャピタル			
オーストラリア	-24円	6円	-30円	45円		
ニュージーランド	-52円	14円	-66円	103円		
アメリカ	-41円	7円	-49円	43円		
イギリス	-75円	19円	-94円	128円		
カナダ	0円	0円	0円	0円		
ノルウェー	-22円	8円	-30円	137円		
小計	-215円	55円	-270円	456円	-29円	0円

各要因合計：債券+為替+信託報酬等+収益分配金＝ 212円

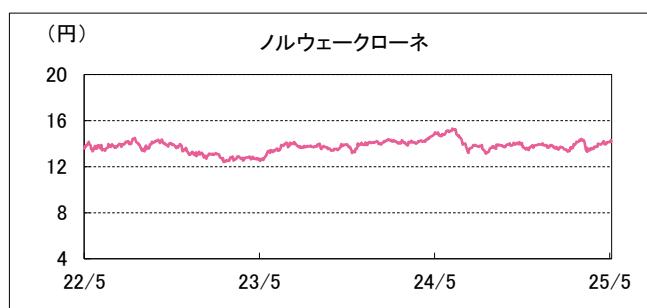
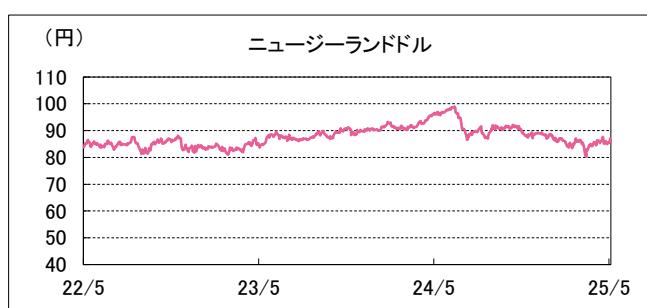
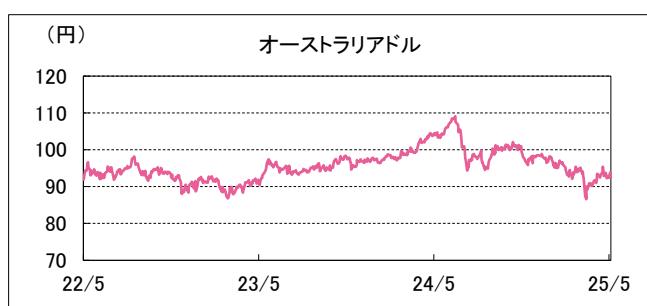
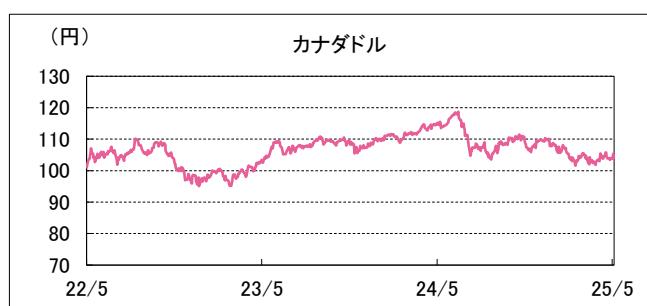
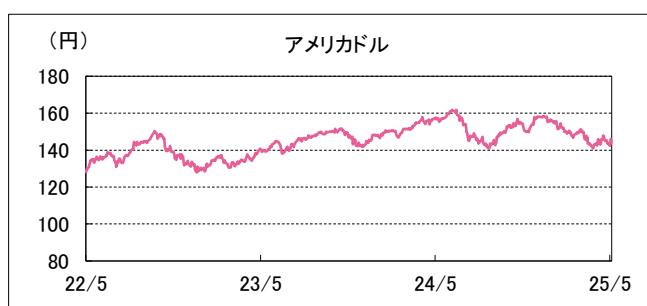
※ 上記の要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
傾向を知るために目安としてご覧下さい。

※ インカムとは、利子などから得られる収益です。

※ キャピタルとは、金利変動等の影響による保有債券の評価損益の変動と売買損益の合計です。

※ 発行通貨ベースで国別に分類して表示しております。

ご参考：為替推移



※各グラフは各通貨の円に対する推移です。

※各グラフは信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。

※各グラフは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

月桂樹（資産成長型）

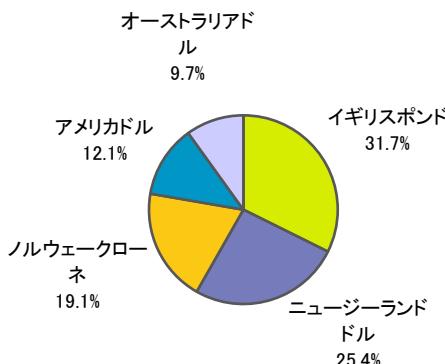
高利回り先進国債券ファンド クラスAのポートフォリオの内容

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

※「債券セクター別構成比率」「債券組入上位10銘柄」の政府保証債等は、政府保証債、政府機関債、国際機関債などです。

<通貨別投資比率>

<資産構成比>	
公社債	97.6%
うち現物	97.6%
うち先物	0.0%
現金その他	2.4%



<債券セクター別構成比率>	
国債	77.3%
地方債	15.9%
政府保証債等	2.1%
社債	2.3%
その他	0.0%

<利回り等>	
平均クーポン	3.15%
平均直接利回り	3.55%
平均最終利回り	4.50%
平均修正デュレーション	8.4年
平均残存期間	11.1年

※為替ヘッジは原則として行なっておりません。

※上記は個別債券について加重平均したものです。
 ※直接利回りは、債券の時価価格に対する1年間に受け取る利息の割合を表したものです。
 ※最終利回りは、債券を満期まで保有した場合の利回りです。
 ※各利回りは、将来得られる期待利回りを示すものではありません。

<債券格付別構成比率>	
Aaa	45.6%
Aa	52.0%
A以下	0.0%
無格付	0.0%

※格付は、ムーディーズ社によるものを原則としています。

<債券組入上位10銘柄> (組入銘柄数: 53銘柄)

銘柄	種別	クーポン(%)	償還日	通貨	格付	比率
1 UK TREASURY イギリス国債	国債	4.5	2035/3/7	イギリスポンド	Aa3	5.7%
2 UK TREASURY イギリス国債	国債	3.25	2044/1/22	イギリスポンド	Aa3	4.5%
3 AUCKLAND COUNCIL オークランド市議会	地方債	5.734	2028/9/27	ニュージーランドドル	Aa2	3.7%
4 UK TREASURY イギリス国債	国債	3.5	2025/10/22	イギリスポンド	Aa3	3.6%
5 NORWEGIAN GOVERNMENT ノルウェー国債	国債	2	2028/4/26	ノルウェークローネ	Aaa	3.5%
6 NEW ZEALAND GOVERNMENT ニュージーランド国債	国債	1.5	2031/5/15	ニュージーランドドル	Aaa	3.4%
7 US TREASURY N/B アメリカ国債	国債	3.375	2042/8/15	アメリカドル	Aa1	3.4%
8 UK TREASURY イギリス国債	国債	3.5	2045/1/22	イギリスポンド	Aa3	3.1%
9 NEW ZEALAND GOVERNMENT ニュージーランド国債	国債	4.5	2035/5/15	ニュージーランドドル	Aaa	2.7%
10 UK TREASURY イギリス国債	国債	4.25	2049/12/7	イギリスポンド	Aa3	2.7%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

月桂樹（資産成長型）

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

【ニュージーランド】

ニュージーランドの債券利回りは上昇（債券価格は下落）しました。ニュージーランド準備銀行（RBNZ）が政策金利を引き下げたことが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、追加利下げ観測が後退したことや、米国と中国が互いの関税を引き下げることで合意し、米中間の貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退したこと、ニュージーランドの小売売上高が市場予想を上回ったことなどから、利回りは上昇しました。

ニュージーランドドルは円に対して上昇しました。ニュージーランド準備銀行（RBNZ）が政策金利を引き下げたことがニュージーランドドルの重しとなったものの、米国と中国が互いの関税を引き下げることで合意し、米中間の貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退したことや、ニュージーランドの小売売上高が市場予想を上回ったことがニュージーランドドルの支援材料となったことに加え、金融政策決定会合後に日銀の追加利上げ観測が後退したことなどが円安要因となり、ニュージーランドドルは円に対して上昇しました。

【アメリカ】

米国の債券利回りは上昇（債券価格は下落）しました。米国連邦公開市場委員会（FOMC）にて米国連邦準備制度理事会（FRB）議長が米国の関税政策に伴う米国景気の先行き不透明感を指摘したことや、米国の生産者物価指数（PPI）が市場予想を下回ったことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、米国と中国が2国間の貿易協定を結ぶことで合意し、関税を巡る交渉が進展しているとの楽観論が広がったことや、米国と中国が互いの関税を引き下げることで合意し、米中間の貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退したこと、米国の格付け会社が米国の信用格付けを最上位から1段階引き下げると発表したこと、米国大統領が掲げる大型減税を含めた税制改革法案により米国の財政赤字が拡大するとの懸念が強まることなどから、利回りは上昇しました。

アメリカドルは円に対して上昇しました。前半は、米国の関税政策は米国の景気減速を招くとの懸念がアメリカドル安要因となったものの、金融政策決定会合後に日銀の追加利上げ観測が後退したことや、米国連邦準備制度理事会（FRB）は早期の利下げに慎重との見方がアメリカドル高要因となり、アメリカドルは円に対して上昇しました。後半は、日本の財務省が国債発行計画を見直して需給悪化への懸念を和らげるとの観測が日本の長期金利の低下要因となり、それが円安要因となったものの、米国との貿易協議を通じて日本が円安を求めるとの思惑が強まることや、米国大統領が掲げる大型減税を含めた税制改革法案により米国の財政赤字が拡大するとの懸念を背景に、アメリカドルは円に対して下落しました。

【オーストラリア】

オーストラリアの債券利回りは上昇（債券価格は下落）しました。オーストラリア準備銀行（RBA）が政策金利を引き下げ、追加利下げに含みを持たせたことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、米国と中国が互いの関税を引き下げることで合意し、米中間の貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退したことや、オーストラリアの雇用者数が市場予想を上回ったことなどから、利回りは上昇しました。

オーストラリアドルは円に対して上昇しました。オーストラリア準備銀行（RBA）が政策金利を引き下げ、追加利下げに含みを持たせたことはオーストラリアドルの重しとなったものの、米国と中国が互いの関税を引き下げることで合意し、米中間の貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退したことや、オーストラリアの雇用者数が市場予想を上回ったことがオーストラリアドルの支援材料となったことに加え、金融政策決定会合後に日銀の追加利上げ観測が後退したことなどが円安要因となり、オーストラリアドルは円に対して上昇しました。

【イギリス】

英国の債券利回りは上昇（債券価格は下落）しました。イングランド銀行（BOE）が政策金利を引き下げたことや、英国の鉱工業生産、製造業購買担当者景気指数（PMI）が市場予想を下回ったことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、米国と中国が2国間の貿易協定を結ぶことで合意し、関税を巡る交渉が進展しているとの楽観論が広がったこと、英国の消費者物価指数（CPI）や小売売上高が市場予想を上回ったことなどから、利回りは上昇しました。

イギリスポンドは円に対して上昇しました。イングランド銀行（BOE）が政策金利を引き下げたことなどがイギリスポンドの重しとなったものの、米国と中国が2国間の貿易協定を結ぶことで合意し、関税を巡る交渉が進展しているとの楽観論が広がったこと、英国の消費者物価指数（CPI）や小売売上高が市場予想を上回ったことがイギリスポンドの支援材料となったことに加え、金融政策決定会合後に日銀の追加利上げ観測が後退したことなどが円安要因となり、イギリスポンドは円に対して上昇しました。

【ノルウェー】

ノルウェーの債券利回りは上昇（債券価格は下落）しました。ノルウェーの中央銀行が政策金利を据え置いたことや、米国と中国が互いの関税を引き下げることで合意し、米中間の貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退したこと、ノルウェーのGDP（国内総生産）が改善したこと、米国の税制改革法案により米国の財政赤字が拡大するとの懸念などから米国の長期金利が上昇したことを背景に、利回りは上昇しました。

ノルウェーエクローネは円に対して上昇しました。ノルウェーのGDP（国内総生産）が改善したことがノルウェーエクローネの支援材料となったことに加え、金融政策決定会合後に日銀の追加利上げ観測が後退したことなどが円安要因となり、ノルウェーエクローネは円に対して上昇しました。

◎運用概況

堅調な経済データや米中関税の部分的引き下げを受けて、世界的な景気後退への懸念が和らぎました。株式は上昇し、信用スプレッドは縮小しました。こうした動きによって、「解放の日」を巡る混乱に続いて生じたボラティリティや損失は概ね解消されました。しかしながら米国債は、ムーディーズによる格付けの引き下げと、意見が対立している税制法案への監視強化を受けて財政懸念が再燃したことが重くのしかかり、鈍い動きとなりました。これを背景に長期利回りは上昇し、30年物米国債利回りは5月21日に5%を上回りました。その後、月末にかけて低下したものの、前月に比べ0.25%高くなっています。債券の下落は世界中に広がりました。30年物ドイツ国債利回りは10.0%上昇して2.98%となりました。トランプ米大統領が欧州連合（EU）に対する50%の関税を提案し、発動期日を6月1日に設定していましたが、その後7月9日に延期されて、当月下旬に市場のボラティリティが再び表面化しました。直後に米国国际贸易裁判所は、関税の大部分は違法と判断し、国際緊急経済権限法（IIEPA）は「無制限」の関税権限をトランプ政権に付与するものではないとしました。これには、ペースライン関税や、カナダ、メキシコ、中国に対する関税が含まれています。この判断を受けて当初はリスク資産が上昇したものの、トランプ政権が控訴して連邦裁判所が差止めの一時停止を認め、関税措置は当面維持されることとなり、上昇は短期的なものとなりました。

◎今後の見通し

米国連邦準備制度理事会（FRB）は5月の会合で、政策金利の誘導目標を3会合連続で4.25～4.50%に据え置き、最近の関税政策で不透明感が強まることに言及しました。FRBは、景気は底堅く労働市場は堅調だとしながらも、インフレは高止まりが続いていること、インフレと雇用の両方のリスクが高まっていると述べました。またFRBは、今後もデータに基づいた判断を行い、特に貿易政策の影響など、変動する経済情勢に応じて政策を決定することを強調しました。次回の会合は6月17～18日に開催される予定です。インフレ見通しの不透明感や景気の底堅さから、市場は金利見通しを見直しました。現在は、年内の利下げは2回にとどまると予想しています。依然脆弱な世界情勢を考慮すると、この見直しは総じて適切だと思われます。

欧州中央銀行（ECB）は4月の会合で政策金利を0.25%引き下げました。これは2024年6月以降7回目の利下げで、ECBはユーロ圏全体のインフレの鈍化や景気低迷への対応を続けています。ECBは、ディスインフレの過程は順調に進んでおり、消費者物価指数の上昇率を2025年は平均2.3%、2026年は1.9%、2027年は2.0%と予想しています。しかしながら、一部セクターの賃金や価格調整の遅れを受け、コインフレ率は高止まりしています。輸出の低迷や貿易政策を巡る不透明感を反映し、成長見通しは引き下げられ、GDP成長率は現在、2025年はわずか0.9%、2026年は1.2%、2027年は1.3%になると予想されています。今後について、ECBは固定的な金利政策を避け、データに基づいて判断する姿勢を改めて示しました。次回の政策会合は6月5日を予定しています。市場は現在、年内に追加利下げを織り込んでいるものの、依然として景気が弱くインフレの動きが総じて鈍化していることから、ECBはこの予想を上回る動きをとる可能性が高いと思われます。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類 購入単位	追加型投信／海外／債券 販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額 信託期間 決算日 収益分配	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 無期限(2008年11月12日設定) 毎年7月10日(休業日の場合は翌営業日) 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額 購入・換金申込不可日	換金申込受付日の翌営業日の基準価額 販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・シドニー先物取引所の休業日
換金代金 課税関係	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。
<申込時、換金時にご負担いただく費用>
購入時手数料 購入時の基準価額に対し <u>2.2%</u> (税抜2%)以内
※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>	
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し年率1.3448%(税抜1.268%)程度が実質的な信託報酬となります。
信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.8448%(税抜0.768%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.5%程度となります。	

その他の費用・手数料	受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。 目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。 ※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
------------	---

■委託会社、その他関係法人

委託会社	: 日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	: 野村信託銀行株式会社
販売会社	: 販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] www.nikkoam.com/ [コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

- 投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- 当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様に「高金利先進国債券オープン（資産成長型）／愛称：月桂樹（資産成長型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **日興アセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会			
株式会社青森みらい銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第1号	○			
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第2号	○			
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
SMB C 日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入						
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社北日本銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第14号	○			
岐阜信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第35号	○			
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第8号	○			
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○	
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第5号	○		○	
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第10号	○			
株式会社七十七銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第5号	○		○	
湘南信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第192号	○			
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入						
株式会社但馬銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第14号	○			
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
株式会社千葉興業銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第40号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入						
株式会社栃木銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第57号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○	○
株式会社百十四銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第10号	○			
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第3号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
株式会社ゆうちょ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第611号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

日興アセットマネジメントからのお知らせ

2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は
アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更します。



アセットマネジメント(am)を
ムーヴ(move)する

社名変更後URL : www.amova-am.com

※社名のみの変更です(主要株主は引き続き三井住友トラストグループ株式会社となります)